

ディノフィシス ロトゥンダータ(渦鞭毛藻)

(*Dinophysis rotundata*)

動画

回転しながら、ゆっくりと泳ぐ。

横溝翼片

縦溝翼片

上殻の高さと横溝の幅が同程度

上殻

横溝

食胞(餌を取り込んで、消化する器官)

遊泳方向

類似種1
ディノフィシス ルジェイ
◆ 上殻の高さが、横溝の幅よりも大きい

類似種2
ディノフィシス ミトラ
◆ 細胞の後端が三角形

類似種3
ディノフィシス オディオサ
◆ 細胞の形が、長い楕円形
◆ 細胞の後端に、棘状の突起がある

大きさ 長さ40～56μm

形態 色は、ほぼ透明。側面から見ると楕円形～円形で、左右に扁平である。細胞の前端付近に横溝がある。魚のヒレのような翼片(よくへん)をもつ。葉緑体はない。上殻(じょうがく:横溝よりも上の部分)の高さは、横溝の幅と同程度である。類似種のディノフィシス ルジェイ(*Dinophysis rudgei*)とは上殻の高さで、ディノフィシス ミトラ(*Dinophysis mitra*)およびディノフィシス オディオサ(*Dinophysis odiosa*)とは細胞後端の形状や突起の有無で区別できる。

動き 回転しながら、ゆっくりと泳ぐ。

その他 葉緑体をもたず、光合成は行なわない。他のプランクトンを食胞(しょくほう)に取り込んで栄養を得る、従属栄養性のプランクトンとされる。

漁業への影響：下痢性貝毒を産生し、二枚貝を毒化させる。マウス試験で二枚貝の毒量が基準値(0.05MU/g)を超えると出荷自主規制措置が講じられる。ただし、伊勢湾で発生する本種については、下痢性貝毒成分をほとんど保有していなかったことが報告されている。

漁業被害：三重県沿岸では、本種による二枚貝の毒化は確認されていない。

発生海域：伊勢湾～熊野灘沿岸

発生時期：4～7月頃